

◎リューブリン注射用キット・◎SR 注射用キット・◎PRO キット [注]

【重要度】 【一般製剤名】 リューブプロレリン酢酸塩 (U) Leuprorelin Acetate 【分類】 LH-RH 誘導体 (マイクロカプセル型徐放性製剤)

【単位】 ○1.88mg [北巽のみ]・◎3.75mg・◎SR 11.25mg・◎PRO 22.5mg/筒

【常用量】

■子宮内膜症：1回3.75mgを4週に1回 [体重50kg未満なら1.88mg]

■子宮筋腫：1回1.88mgを4週に1回 [体重の重い患者、子宮腫大が高度の患者では3.75mg]

■前立腺癌・閉経前乳癌：1回3.75mgを4週に1回

■中枢性思春期早発症：1回30μg/kgを4週に1回 [最大180μg/kg]

○SR 注射用：前立腺癌・閉経前乳癌に対し1回11.25mgを12週に1回

○PRO：24週に1回22.5mg

【用法】皮下注 ■子宮内膜症・子宮筋腫：初回投与は月経周期1～5日目

注射部位をこすらない、揉まない

【透析患者への投与方法】常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (1)

【特徴】4週に1回の投与により、前立腺癌患者の血中テストステロンを去勢レベルまで抑制する。通常針 (23G) で上腕部にも皮下投与が可能なマイクロカプセル型 (スポンジボールの隙間に薬物が入っている形) の徐放性製剤。SRは12週に1回投与を遵守する。

【主な副作用・毒性】間質性肺炎、アナフィラキシー、関節痛、血栓塞栓症、心不全、血清リン上昇、脱毛、多毛、口内炎、心悸亢進、赤血球増多、白血球減少、痙攣、頻尿、排尿困難、口唇・四肢のしびれ、知覚異常、脂質代謝異常、筋肉痛、黄疸、下垂体腺腫患者における下垂体卒中など

【F】90% (U)

【tmax】1日 (1)

【代謝】ペプチドの分解により代謝される (U)

【排泄】尿中未変化体排泄率2.9%、代謝物M-1として1.5% [sc, 28日まで] (1) 尿中回収率5%未満 (U)

【CL】138mL/min (10)

【t1/2】2.9hr (10)

【蛋白結合率】43～49% (1) 46% (U)

【Vd】0.5L/kg (10) 27L/man (U)

【MW】1269.47

【透析性】6.8～20.2% [ただし血中濃度変化率] (中田誠司, 他: 透析会誌 31:1217-1219,1998) 除去率30～60% (1) であるが、徐放性製剤のため体内薬物量に対する除去率は低いと思われる (5)

【TDMのポイント】一般的にTDMは実施されていない【O/W係数】水相に分配 (1) 【pKa】5.9, 10 (1)

【備考】当日の入浴を避ける (5)

【更新日】20240326

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。